

FY17
決算説明資料

2018年5月9日
東京特殊電線株式会社

1. 決算概要	P.02
2. 配当金・業績予想	P.06
3. 参考資料	P.08

1-1. 損益計算書

(単位:百万円、%)	FY16	FY17			
	実績	実績	増減	増減率	増減要因
売上高	16,273	18,924	+2,650	+16.3	
売上原価	11,967	14,050	+2,083	+17.4	
売上総利益	4,305	4,873	+567	+13.2	
販売費及び一般管理費	2,286	2,258	▲28	▲1.2	
営業利益	2,019	2,615	+595	+29.5	
経常利益	2,089	2,571	+481	+23.1	
税引前利益(※1)	1,783	2,478	+694	+38.9	特別利益 +286(+29→+315) 特別損失 ▲73(▲335→▲409)
当期純利益(※2)	2,252	1,994	▲257	▲11.5	法人税等調整額 ▲865(+1,074→+209)

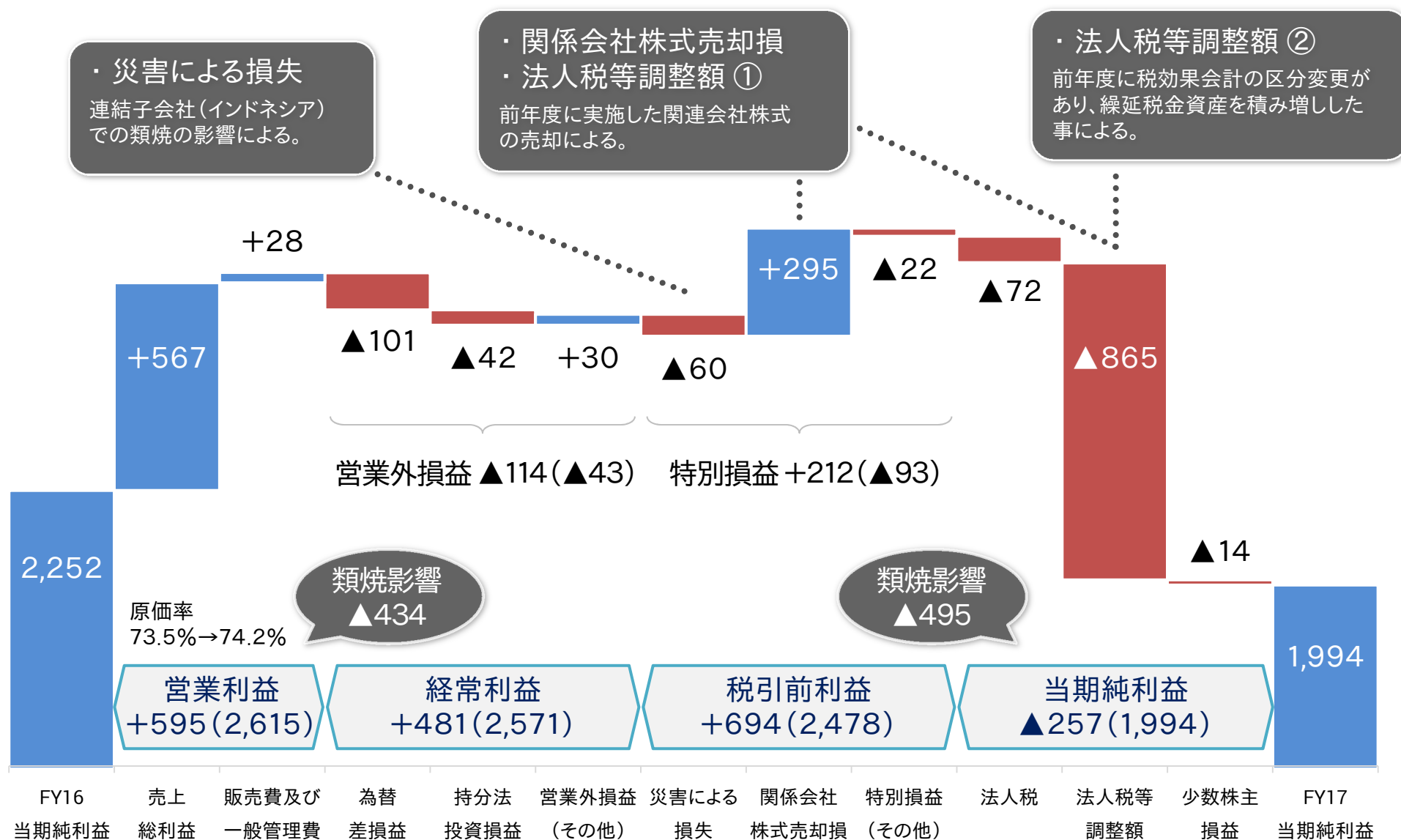
※1 税金等調整前当期純利益 ※2 親会社株主に帰属する当期純利益

1-2. 損益計算書 [分野別売上高]

- 売上高は18,924百万円となり、前期比+2,650百万円(+16.3%)の増収となった。
- 売上高に含まれる為替変動による影響額 +84百万円
(分野別：電線、ヒータ分野 +94百万円、デバイス分野 ▲10百万円)
- 電線、ヒータ分野は自動車向けシート用ヒータ線及び三層絶縁電線が堅調、メガトルクモータ、スマートフォン用インダクターに使用されるリボン線等が好調となった結果、前期比+10.1%の増収となった。
- デバイス分野についても引き続きコンタクトプローブ、サスペンションワイヤ、フレキシブルフラットケーブルが好調に推移しており、前期比+28.8%の増収となっている。

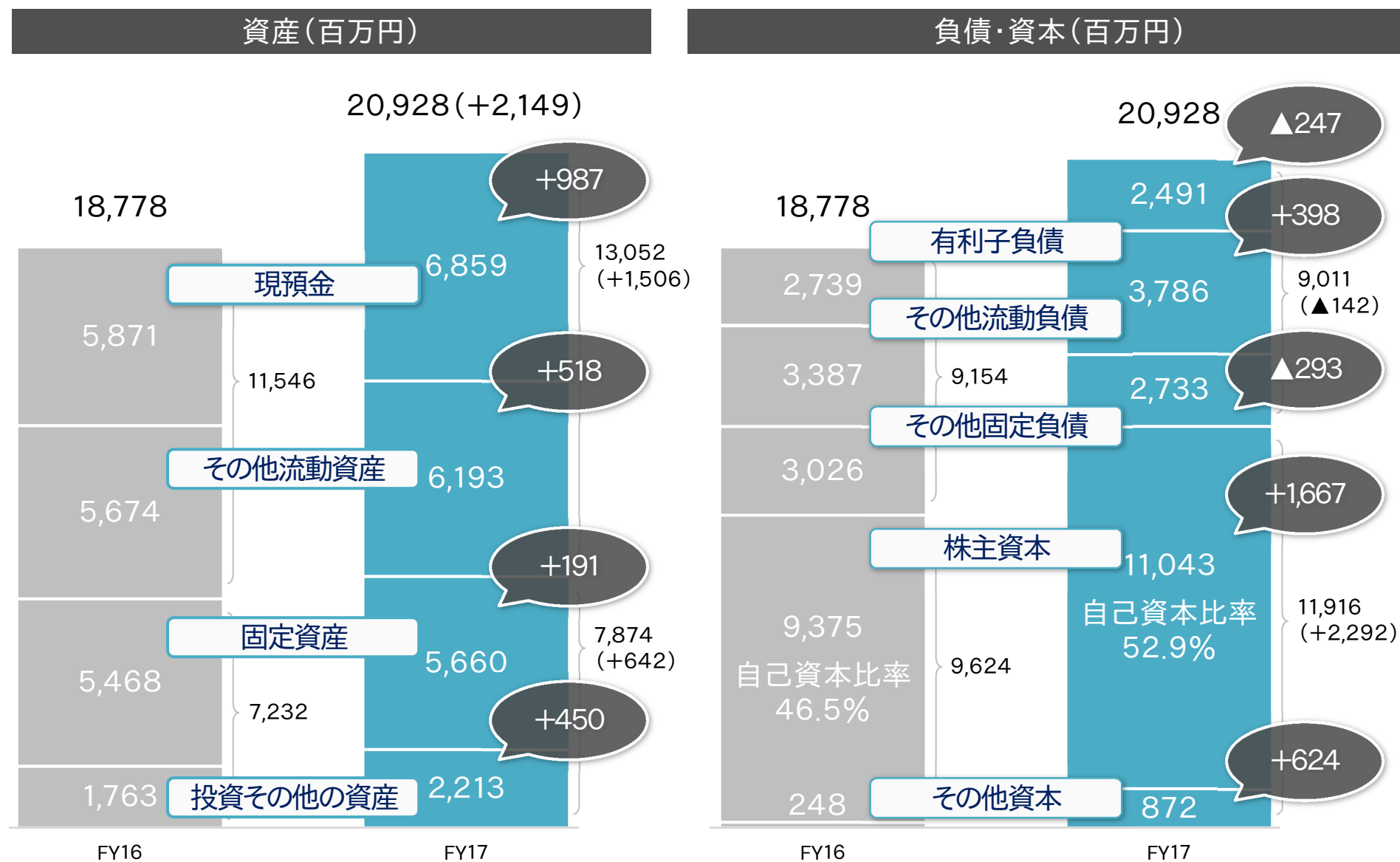
(単位:百万円、%)	FY16	FY17		
	実績	実績	増減	増減率
売上高	16,273	18,924	+2,650	+16.3
電線、ヒータ分野	10,759	11,843	+1,084	+10.1
デバイス分野	5,374	6,923	+1,549	+28.8
その他分野	140	158	+18	+13.1

1-3. 親会社株主に帰属する当期純利益増減分析 [前期比較]



(単位:百万円) 括弧内はFY17実績を表示、税引前利益 = 税金等調整前当期純利益、少数株主損益 = 非支配株主に帰属する当期純利益、当期純利益 = 親会社株主に帰属する当期純利益

1-4. 貸借対照表



現預金には親会社の金融子会社である古河ファイナンス・アンド・ビジネス・サポート(株)に対する預け金を含む、Net有利子負債は▲1,235百万円と大幅に改善

2-1. 配当金

(単位:円.銭)	年間配当金			総額(百万円)	配当性向(%)
	中間	期末	合計		
FY15	—	30.0	30.0	203	17.7
FY16	10.0	30.0	40.0	271	12.1
FY17	20.0	40.0	60.0	407	20.4
FY18(予想)	30.0	30.0	60.0	—	22.4

2-2. FY18 業績予想

(単位:百万円、%)	FY17				FY18		
	前回予想	実績	前回比	増減率	予想	FY17比	増減率
売上高	18,700	18,924	+224	+1.2	18,500	▲424	▲2.2
営業利益	2,550	2,615	+65	+2.6	2,300	▲315	▲12.1
経常利益	2,530	2,571	+41	+1.7	2,250	▲321	▲12.5
当期純利益(※1)	1,830	1,994	+164	+9.0	1,820	▲174	▲8.7

※1 親会社株主に帰属する当期純利益

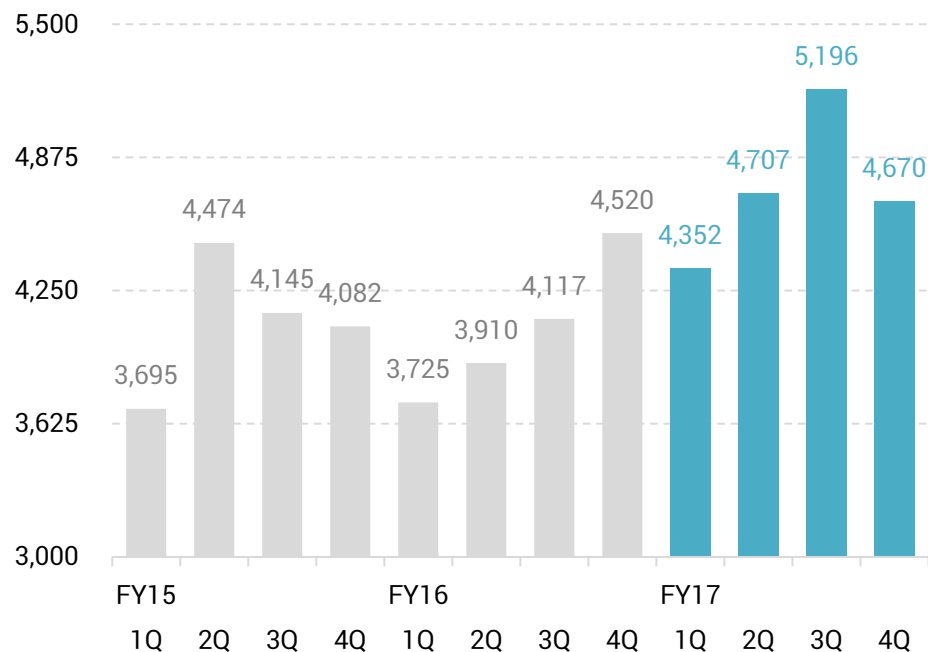
上表、業績予想に含まれる連結子会社(インドネシア)類焼による影響額は下表となります。

(単位:百万円、%)	FY17				FY18
	前回予想	実績	前回比	増減率	
営業利益	▲443	▲434	+8	+2.0	▲96
特別利益	314	314	—	—	—
保険金収入	314	314	—	—	—
特別損失	▲374	▲374	—	—	—
棚卸損失	▲157	▲157	—	—	—
固定資産損失	▲105	▲105	—	—	—
復旧に係る費用	▲111	▲111	—	—	—
当期純利益(※1)	▲503	▲495	+8	+2.0	▲96

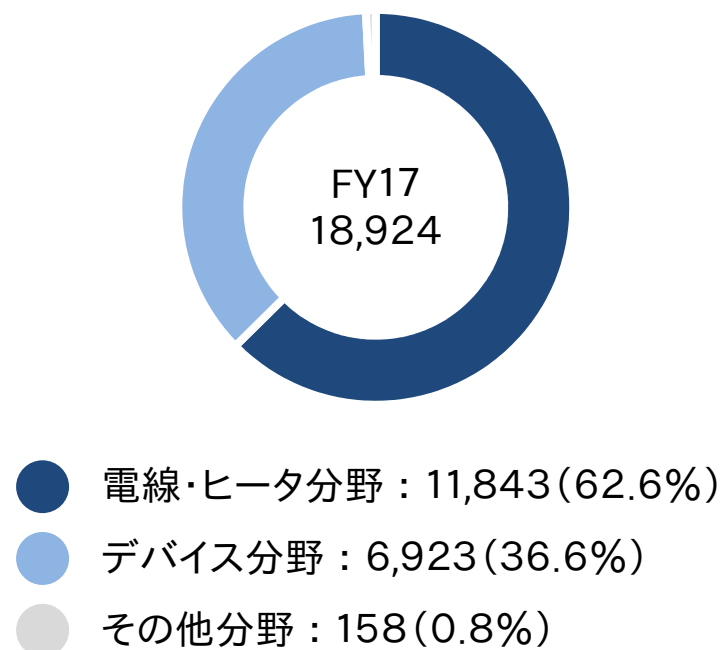
3-1. 売上高 [連結]

- 売上高は18,924百万円となり、前期比+2,650百万円(+16.3%)の増収となった。
- 電線、ヒータ分野は自動車向けシート用ヒータ線及び三層絶縁電線が堅調、メガトルクモータ、スマートフォン用インダクターに使用されるリボン線等が好調となった結果、前期比+10.1%の増収となった。
- デバイス分野についても引き続きコンタクトプローブ、サスペンションワイヤ、フレキシブルフラットケーブルが好調に推移しており、前期比+28.8%の増収となっている。

売上高(百万円)



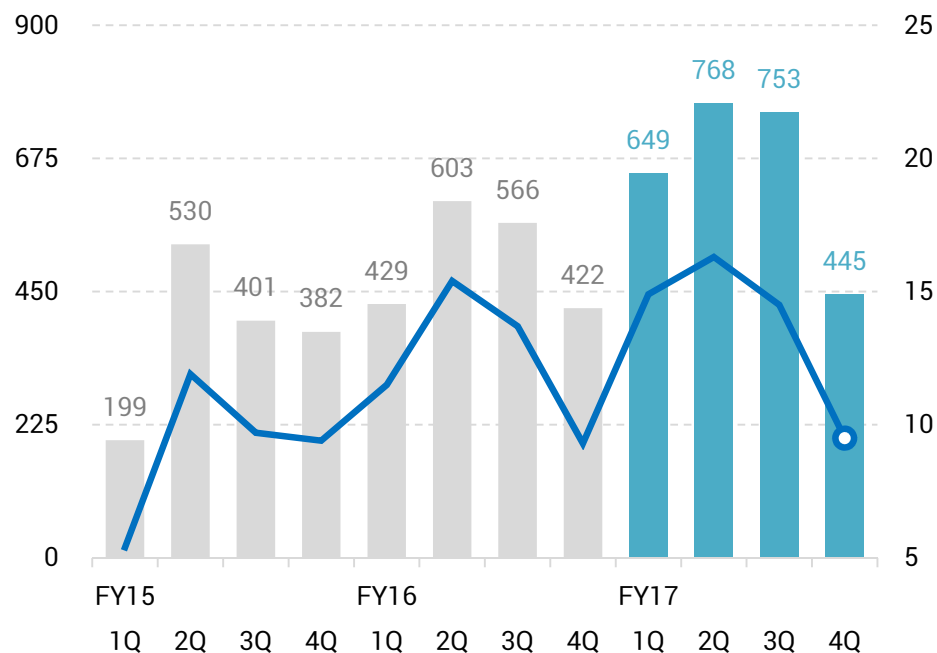
分野別売上高割合(百万円)



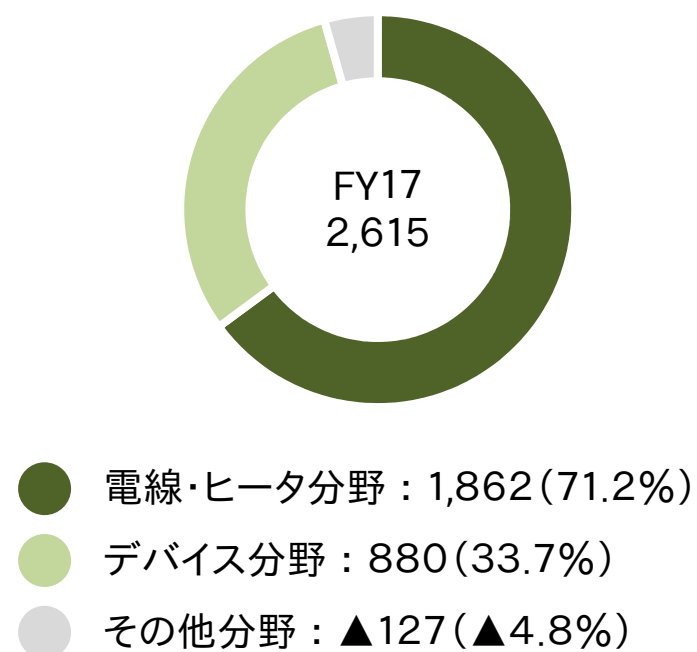
3-2. 営業利益 [連結]

連結子会社(インドネシア)での類焼に伴い、▲434百万円の影響を受けたものの、売上高での増収に加え、収益性の高い製品が伸長した事や生産性の向上及び原価低減が寄与し、原価率の悪化を▲0.7%に抑えられた為、前期比+29.5%の増益となった。

営業利益、利益率(百万円、%)



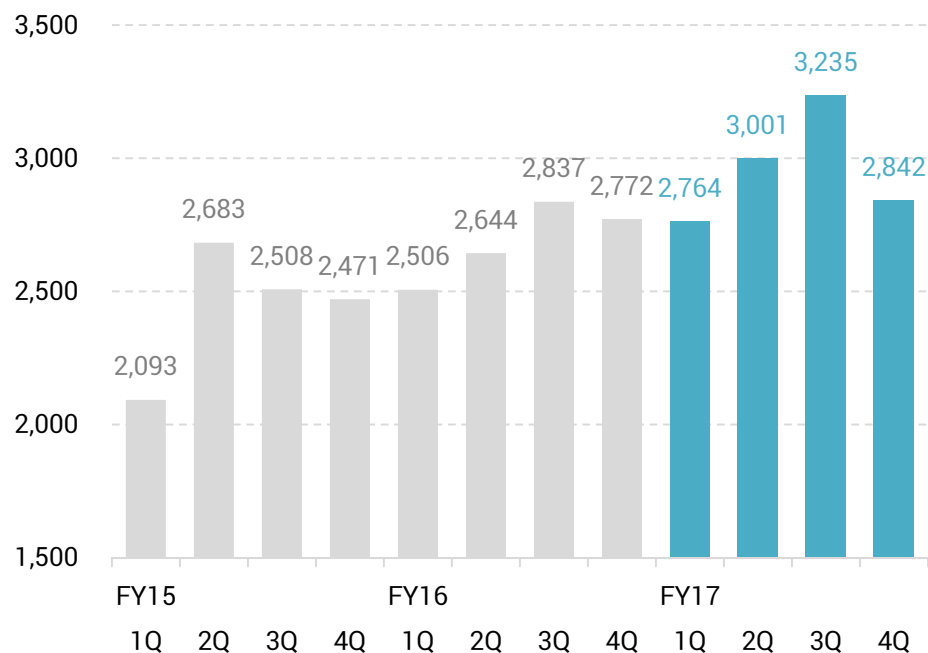
分野別営業利益割合(百万円)



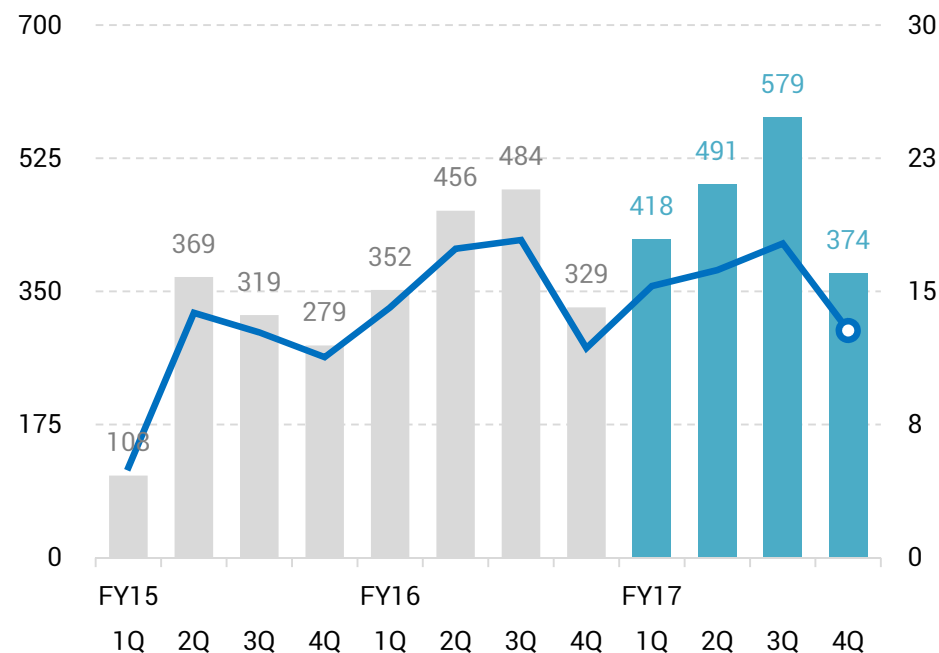
3-3. 分野別概況 [電線、ヒータ分野]

- 売上高について、電線分野はスマートフォン、PCの電源トランスに使用される三層絶縁電線が堅調となり、ヒータ分野についても自動車向けシート用ヒータ線が堅調な推移となった。
- 営業利益は、銅価格の高騰(国内建値平均：FY16 604円/kg → FY17 757円/kg)となったものの、売上高での増収がカバーする形となり、増益となっている。

売上高(百万円)



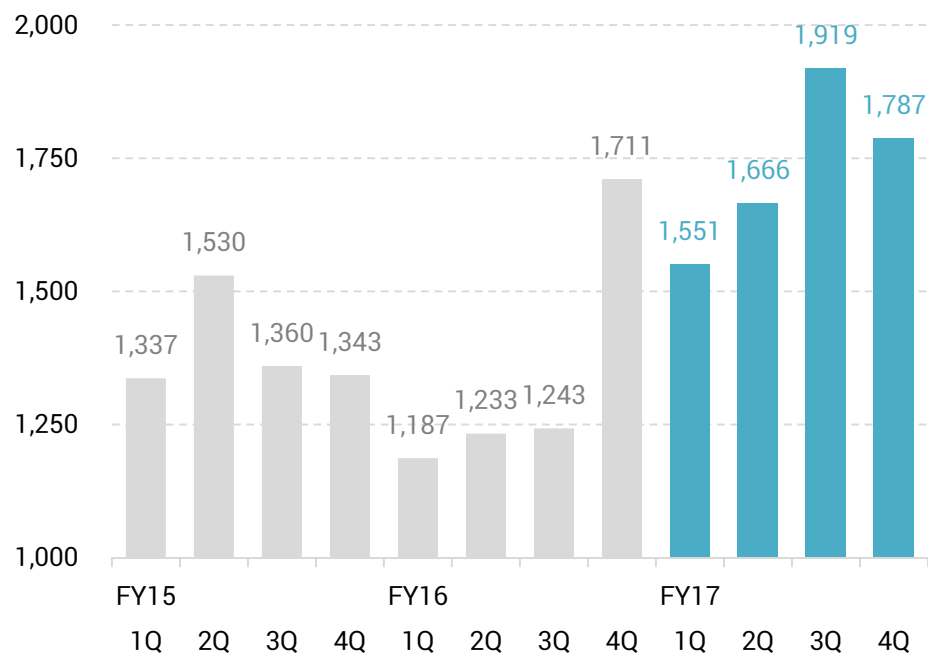
営業利益、利益率(百万円、%)



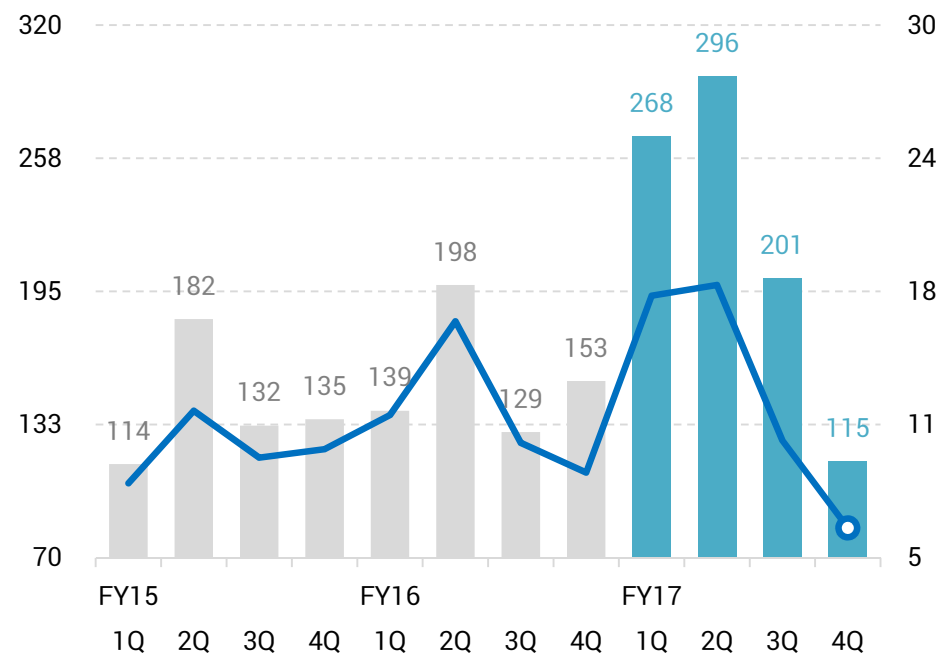
3-4. 分野別概況 [デバイス分野]

- 売上高は、コンタクトプローブ、サスペンションワイヤ等の線材加工品、プリンター等に使用されるフレキシブルフラットケーブルの好調に伴い、大幅な増収となった。
- 営業利益は、売上高での増収や線材加工品の伸長により、連結子会社(インドネシア)での類焼による営業損失を補い増益となっている。

売上高(百万円)



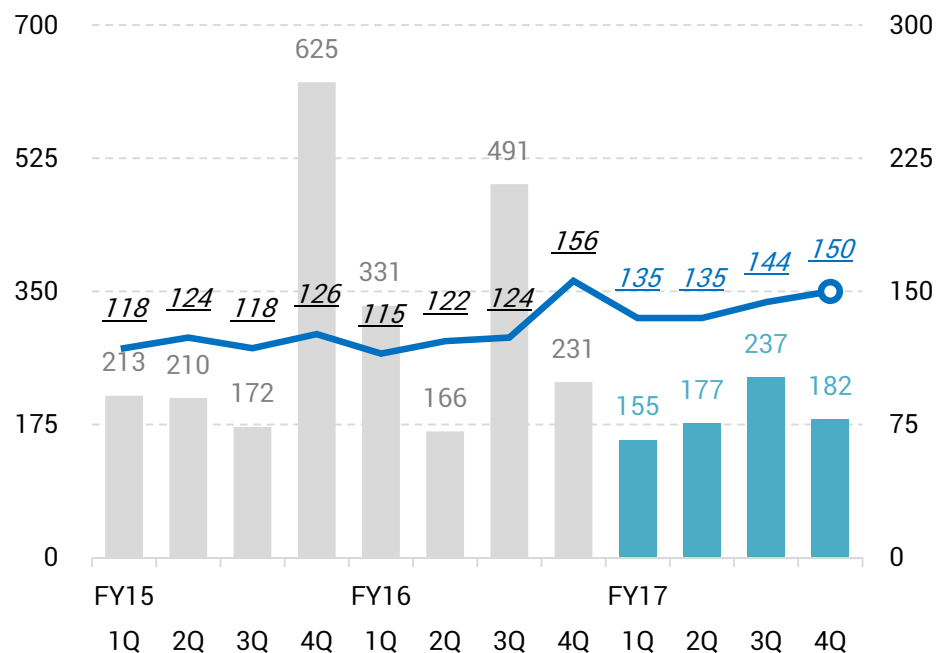
営業利益、利益率(百万円、%)



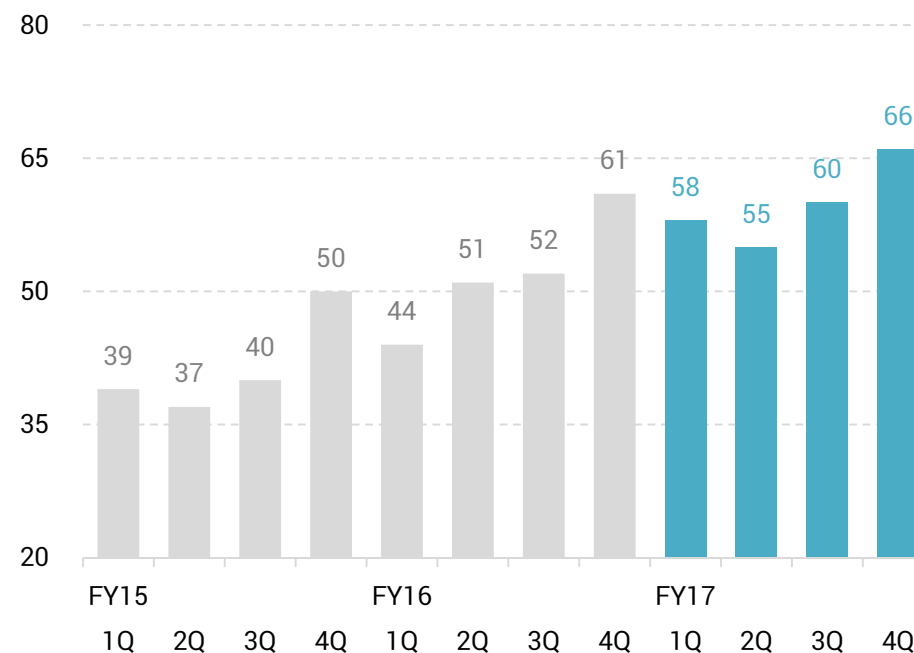
3-5. 設備投資、研究開発費 [連結]

- 設備投資は、前期比▲467百万円の752百万円となった。
(本体 383百万円、連結子会社 368百万円)
- 研究開発費については、連結子会社での費用が増加している。

設備投資、減価償却費(百万円)



研究開発費(百万円)



3-6. 貸借対照表 [数値]

(単位:百万円、%)	FY16	FY17			
	実績	実績	増減	増減率	増減要因
流動資産	11,546	13,052	+1,506	+13.0	
現預金、預け金(※1)	5,871	6,859	+987	+16.8	
その他	5,674	6,193	+518	+9.1	
固定資産	7,232	7,874	+642	+8.9	
有形、無形固定資産	5,468	5,660	+191	+3.5	
投資その他の資産	1,763	2,213	+450	+25.6	
資産合計	18,778	20,928	+2,149	+11.4	
流動負債	5,803	4,999	▲804	▲13.9	
固定負債	3,350	4,012	+662	+19.8	
負債合計	9,154	9,011	▲142	▲1.6	
株主資本	9,375	11,043	+1,667	+17.8	FY07以来10,000百万円台に回復
その他	248	872	+624	+251.7	
純資産合計	9,624	11,916	+2,292	+23.8	
負債純資産合計	18,778	20,928	+2,149	+11.4	
自己資本比率	46.5	52.9	+6.4	—	
有利子負債	2,739	2,491	▲247	▲9.1	
Net有利子負債	▲3,131	▲4,367	▲1,235	+39.4	大幅に改善

※1 親会社の金融子会社である古河ファイナンス・アンド・ビジネス・サポート(株)に対する預け金を含む